

## 全国研究大会での研究報告について

### セッションの種類

- (1) 全国研究大会では、原則、統一論題、自由論題、ドクトラル・セッションの3種類のセッションを設けています。

### 各セッションへの応募資格

- (2) 統一論題は、プログラム委員会が定めたテーマに基づき、研究報告を行うセッションです。非会員との共同研究報告も可能ですが、登壇者は、原則、会員のみとします。ただし、プログラム委員会によって企画された特別講演などの場合には、非会員が登壇しての研究報告が行われることもあります。
- (3) 自由論題は、報告者の関心に応じてテーマ設定を行い、研究報告を行うセッションです。非会員との共同研究報告も可能ですが、登壇者は会員のみとします。
- (4) ドクトラル・セッションは、大学院生が研究報告を行うセッションです。大学院生であれば非会員でも研究報告の応募ができますが、大学院生以外との共同研究報告は受け付けません。なお、修士課程を修了した上で、博士後期課程への進学を目指されている研究生等の方は、日本商業学会正会員である指導教授（それに準ずる方）の推薦があった場合に応募を受け付けます。
- (5) プログラム編成の都合上、希望されたセッションとは別のセッションでの研究報告をお願いする場合があります。
- (6) 非会員の方が統一論題や自由論題での研究報告を希望される場合には、大会時に開催される理事総会において入会が承認されることを条件に、応募を受け付けています。ただし、入会申請がない場合や入会申請が承認されなかった場合には、研究報告の資格を失いますのでご注意ください。

### 研究報告について

- (7) 研究報告は、過去の商業学会全国研究大会および全国レベルの連合研究報告会（全国研究報告会など）での研究報告と異なる必要があります。類似した研究報告を行う場合には、研究が一定程度発展しているものとしてください。ただし、プログラム委員会によって企画された特別講演などでの研究報告はこの限りではありません。
- (8) 商業学会全国研究大会では、各部会研究報告会での議論を経た質の高い研究報告を歓迎しており、審査時に優先的に取り扱います。応募フォーマットに過去の部会研究報告会での報告実績を記載してください。なお、既に研究報告を聞いたことのある参加者の不利益にならないよう、プログラム上に「既報告（部会）」との記載させていただきます。その旨、ご了承ください。
- (9) 商業学会以外の学会で行われた研究報告は、多くの研究者からのフィードバックが研究の発展につながるという考えの下、応募を禁止することはしていません。ただし、参加者が重複した研究報告を聞くことは会員の不利益にもなりかねませんので、応募時のフォーマットにて他学会で同一の論題や内容で報告した実績を明示するようにしてください。全国研究大会当日までに報告する予定がある場合も同様です。プログラム上に「既報告（一般）」との記載させていただきます。ご了承

ください。なお、類似した内容であっても、(7)同様、一定程度議論が発展しているものであれば、異なる研究報告として位置づけます。

(10) 研究報告の応募時点で出版されていたり、受諾（アクセプト）されていたりする論文や書籍の内容は応募しないでください。オンラインの論文誌に掲載されたものやプロシーディングスにフルペーパーとして掲載されたものも同様です。ただし、アブストラクトとしてプロシーディングスに掲載されているものはこの限りではありません。

(11) 若手研究者の研究を活性化させるとの考えの下、博士論文については、(10)で示した公表された論文には含めません。積極的な応募を歓迎しております。

(12) 多くの会員の研究報告機会を確保するため、1回の大会における1人の会員の登壇機会は1回とします。登壇の上限回数を超える複数の研究報告を応募された場合に、そのいずれを採択するかは、プログラム委員会で決定します。登壇しない研究報告の上限は設けていませんが、会員が幅広い領域に関心を有していることを念頭に、応募された研究報告の審査を行います。

### 非会員の大会への参加について

(13) 会場の制約などの問題から、非会員の研究大会参加可否は、会員からの推薦に基づいて全国研究大会準備委員会が判断いたします。研究報告の共同研究者であっても同様です。非会員の共同研究者が研究大会への参加を希望される場合には、本部事務局あるいは全国研究大会準備委員会に所定の期日までにご申請ください。

### その他

(14) 要旨集に掲載する原稿は要旨のみとします（フルペーパーの提出は受け付けておりません）。所定の期日までにご提出ください。

(15) 全国研究大会への参加者は、原則、学会員に限られております。学会に求められる社会的役割を果たし、会員の皆様の研究成果を広く社会に発信するためにも、全国研究大会での議論を反映した形で学会誌などへのご投稿を積極的にご検討ください。

※登壇とは、研究大会において実際にプレゼンテーションを行うことを意味しています。共同研究報告の場合、プログラムに記載されている方全てを研究報告者、代表してプレゼンテーションを行われた方を登壇者として扱います。

※例年、冬に開催されている全国研究報告会は、各部会が協力して開催する連合研究報告会として位置付けられていますが、所属部会に制限を設けずに全国から研究報告や参加を募っていることから、全国レベルの大会として扱います。

2023年5月27日

日本商業学会常任理事会